



サステナビリティの取り組み

2023年5月

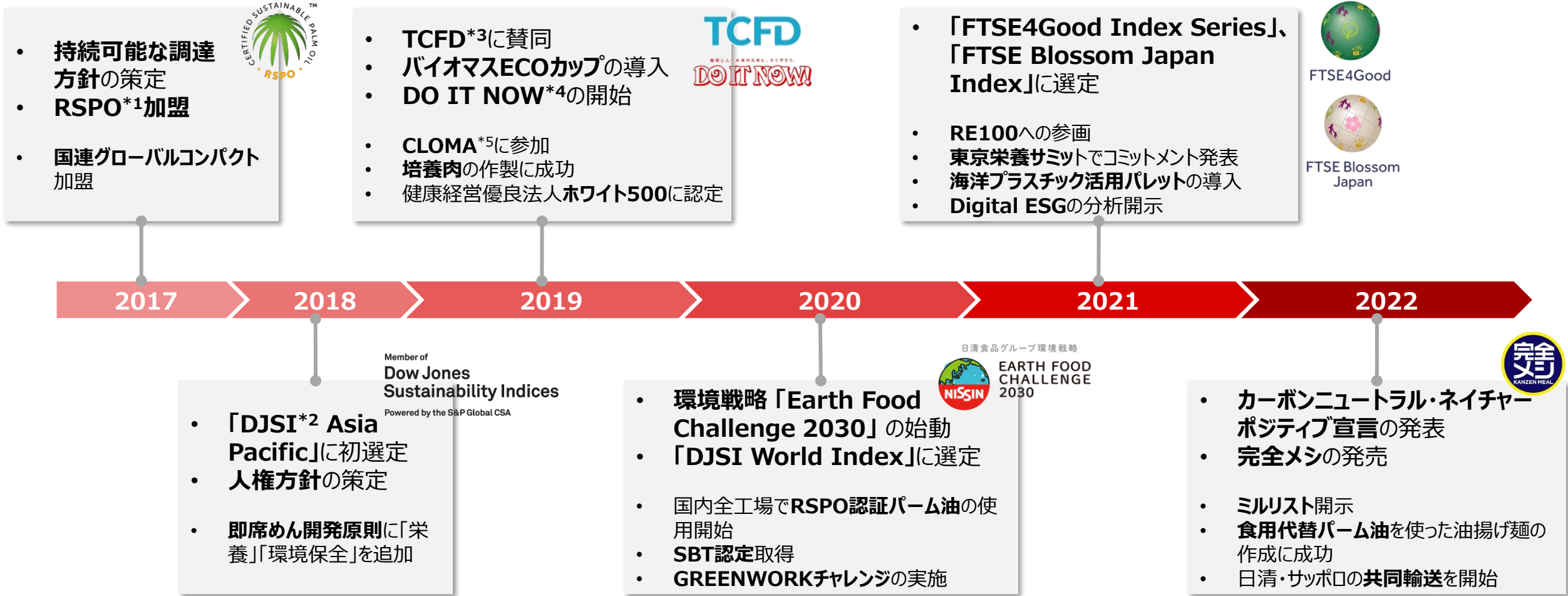
日清食品ホールディングス株式会社

| 本日のアジェンダ

- 1. EARTH FOOD CHALLENGE 2030**
- 2. 非財務価値向上に向けた取り組みと企業価値の関係性の可視化・分析**
- 3. カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ宣言**

サステナビリティ推進に向けた歩み

環境・社会の両面における戦略・方針策定や、培養肉や完全メシなどイノベーションを駆使した取り組みにより、近年はDJSIやFTSEなど世界的なESG投資指標の構成銘柄に選定。



*1: Roundtable on Sustainable Palm Oil (持続可能なパーム油のための円卓会議)

*2: Dow Jones Sustainability Index

*3: Task Force on Climate-related Financial Disclosures (気候関連財務情報開示タスクフォース)

*4: 「カップヌードル」を通して、地球と人の未来のためにすべきこと、できることを今すぐに取り組みでいくプロジェクト

*5: クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス

日清食品グループの価値創造プロセス

社会的価値

- ◎消費者の未病改善/健康増進
- ◎従業員のエンゲージメント向上
- ◎次世代へ豊かな地球環境を引き継ぐ

経済価値

価値区分	経営指標	中長期目標値
成長性	既存事業コア 営業利益成長率	1桁台半ば
効率性	ROE	長期的に10%
安全性	純有利子負債/ EBITDA倍率	≤2倍
安定的 株主還元	配当政策	累進的配当
	相対TSR (TOPIX食料品対比)	>1倍

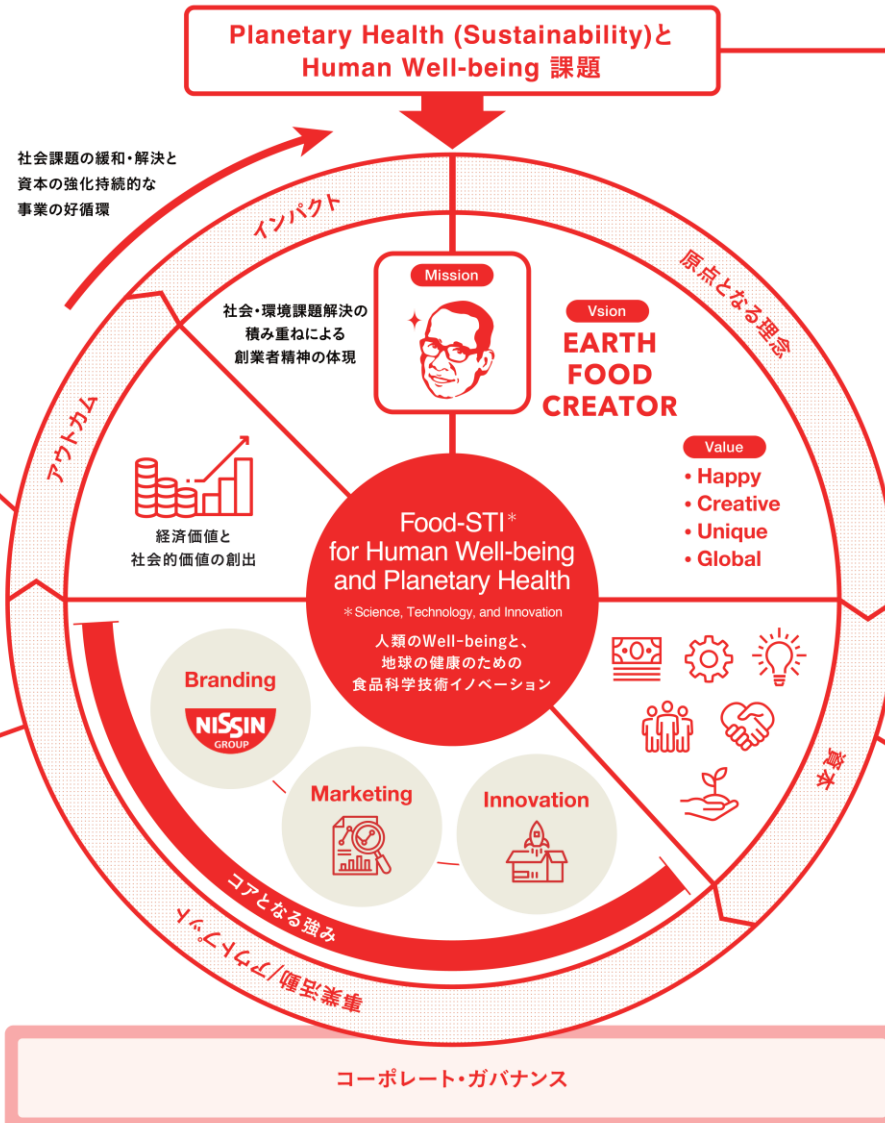


国内非即席めん

新規事業

国内即席めん

海外事業



- ◎食の安全・安心
- ◎気候変動
- ◎資源循環
- ◎持続可能性に配慮した調達活動
- ◎生物多様性
- ◎飢餓・貧困
- ◎オーバーカロリー
- ◎隠れ栄養失調
- ◎フードデザート
- ◎ダイバーシティ&インクルージョン

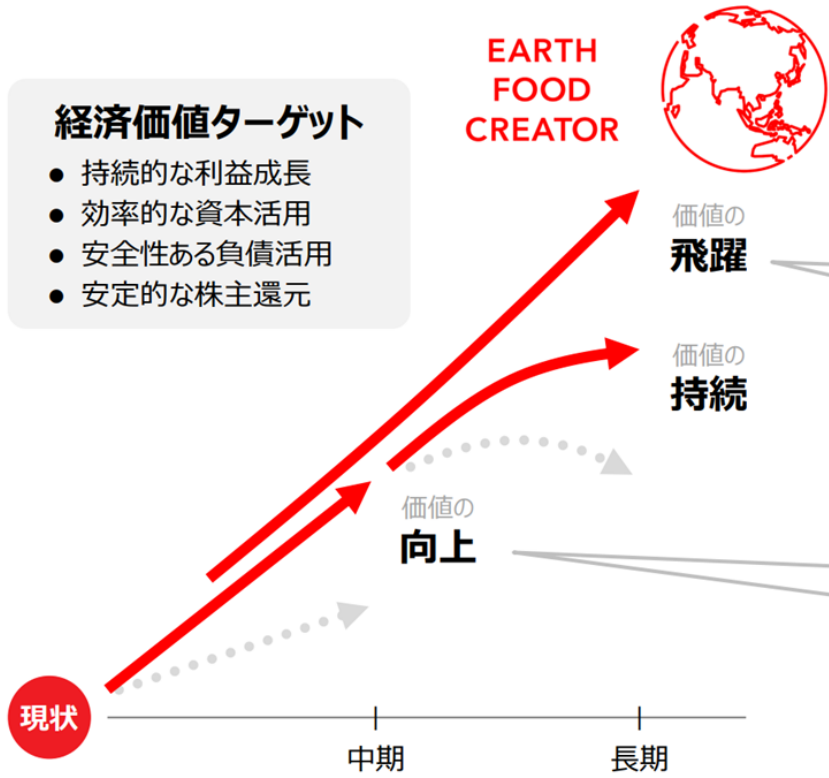
	健全な財務体質と高い収益性 ・親会社所有者帰属持分比率:59.6% ・Net debt/EBITDA:△0.5x ・フリーキャッシュフロー:495億円
	グローバルな事業活動を支える製造拠点と高い品質 ・グループ生産拠点:国内36社/海外26社 ・設備投資額:283億円 ・関西工場不良品発生率:100万分の1以下
	技術革新力を支えるR&D拠点と新規事業への投資 ・グループ全体保有特許数:国内444、海外694* ・研究開発費:101億円 ・新規事業投資:既存事業コア営業利益の5~10%程度
	事業を支える食文化創造集団 ・女性管理職:6% ・社員エンゲージメント(企業理念への共感):84% ・海外国籍従業員比率:53%
	すぐれたマーケティングノウハウに培われたブランド力 ・広告宣伝費:166億円 ・お客様の声をもとにした製品改善:33件(年間) ・カップヌードル販売国数100か国以上/ 販売額約2,000億円(当社調べ)
	EARTH FOOD CHALLENGE 2030による「資源」と「気候変動」への取り組み ・取水量(国内外):11.3m ³ /百万円 ・CO ₂ 排出量(スコープ1+2):42.7万tCO ₂ ・持続可能なパーム油の調達比率:36% ・取引先へのサステナビリティ調査の実施

1. EARTH FOOD CHALLENGE 2030

EARTH FOOD CHALLENGE 2030

EARTH FOOD CHALLENGE 2030は、2021年5月に公表した「2030年に向けた中長期成長戦略」における3つの成長戦略テーマの内の一つ。

ビジョン実現へのロードマップ



3つの成長戦略テーマ 食 足 世 平 食 創 為 世 美 健 賢 食 食 為 聖 職

↑ 人 においしい、 社会 においしい、 地球 においしい。

3 新規事業の推進
フードサイエンスとの共創による“未来の食”
テクノロジーによる
食と健康のソリューション企業へ
事業／顧客基盤や成長資金を活用

1 既存事業のキャッシュ創出力強化
海外＋非即席めん事業のアグレッシブな
成長により利益ポートフォリオを大きく
シフトさせながら持続的成長を追求する

2 EARTH FOOD CHALLENGE 2030
有限資源の有効活用と
気候変動インパクト軽減
へのチャレンジ

Food Tech Innovation

環境戦略：EARTH FOOD CHALLENGE 2030

2020年、環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」を策定。有限な地球資源を持続可能な形で活用しながら、事業活動全体で気候変動へのインパクト抑制を目指す。





EARTH FOOD
CHALLENGE
2030

地球のために。未来のために。



Earth
Material
Challenge

資源の有効活用へのチャレンジ

地球に優しい調達



持続可能な
パーム油調達比率
100%

地球資源の節約



水の使用
12.3m³/売上百万円

ごみの無い地球



生産過程の再資源化率
99.5%以上
販売・流通過程の廃棄物
半減 *日本の実績が対象

Green
Food
Challenge

気候変動問題へのチャレンジ



グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲30%
(対2018年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)



EARTH FOOD
CHALLENGE
2030

地球のために。未来のために。



2022年実績

Earth
Material
Challenge

資源の有効活用へのチャレンジ

地球に優しい調達



持続可能な
パーム油調達比率
37.7%

地球資源の節約



水の使用
10.5m³/売上百万円

ごみの無い地球



生産過程の再資源化率
99.8%
販売・流通過程の廃棄物
▲47% *日本の実績が対象

Green
Food
Challenge

気候変動問題へのチャレンジ



グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲4.0%
(対2018年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
+0.4%
(対2018年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
+0.4%
(対2018年比)



EARTH FOOD CHALLENGE 2030

地球のために。未来のために。



Earth Material Challenge

資源の有効活用へのチャレンジ

地球に優しい調達



持続可能な
パーム油調達比率
100%

国内即席めんは
2025年に目標前倒し

地球資源の節約



水の使用
12.3m³/売上百万円

ごみの無い地球



生産過程の再資源化率
99.5%以上
販売・流通過程の廃棄物
半減 *日本の実績が対象

Green Food Challenge

気候変動問題へのチャレンジ



グリーンな電力で作る



SCOPE1+2
▲30%
(対2018年比)

今年から目標上方修正
▲42%
(対2020年比)

グリーンな食材を使う



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

今年から目標上方修正
▲25%
(対2020年比)

グリーンな包材で届ける



SCOPE3
▲15%
(対2018年比)

持続可能なパーム油調達：コミットメント

持続可能なパーム油調達比率100%の目標に加え、RSPOが定める「原則と基準」やNDPE (森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ)に基づく調達方針を策定。

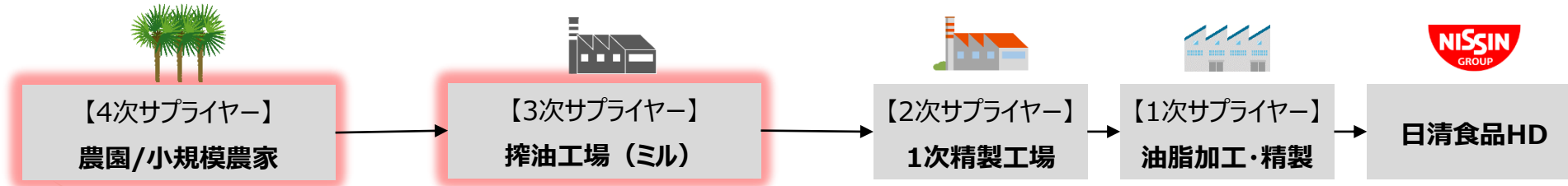
持続可能なパーム油調達コミットメント

日清食日清食品グループは、NDPE (No Deforestation、No Peat、No Exploitation = 森林破壊ゼロ、泥炭地開発ゼロ、搾取ゼロ) を支持し、取引先等のステークホルダーの協力を得て、パーム原産地の環境と労働者の人権に配慮して生産されたことが確認できるパーム油を調達します。

- 保全価値の高い (HCV: High Conservation Value) 地域および炭素貯蔵力の高い (HCS: High Carbon Stock) 森林の保護、森林破壊ゼロ
- 深さに関わらない泥炭地の新たな開発禁止
- 植栽や土地造成、その他開発のための火入れ禁止
- 先住民族・地域住民の権利尊重・土地権侵害の禁止
- RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) が定める「原則と基準」の遵守
- 農園まで含めたトレーサビリティの確認

持続可能なパーム油調達：サプライチェーン

パーム油のサプライチェーンの内、最上流のアブラヤシ農園と搾油工場（ミル）にESGRリスクが顕在。これらのトレーサビリティ確保・モニタリングに注力して取り組みを推進。



【農園】 アブラヤシの果房を栽培・収穫

アブラヤシは成長すると樹高が20m以上に成長し高い幹の先端付近に実がなる。労働者は長いカマで実を切り落とす必要がある。



【搾油工場】 アブラヤシの果房から搾油



果房を蒸して酵素の不活性化を行った後、柔らかくなった果実を潰して油を搾る。

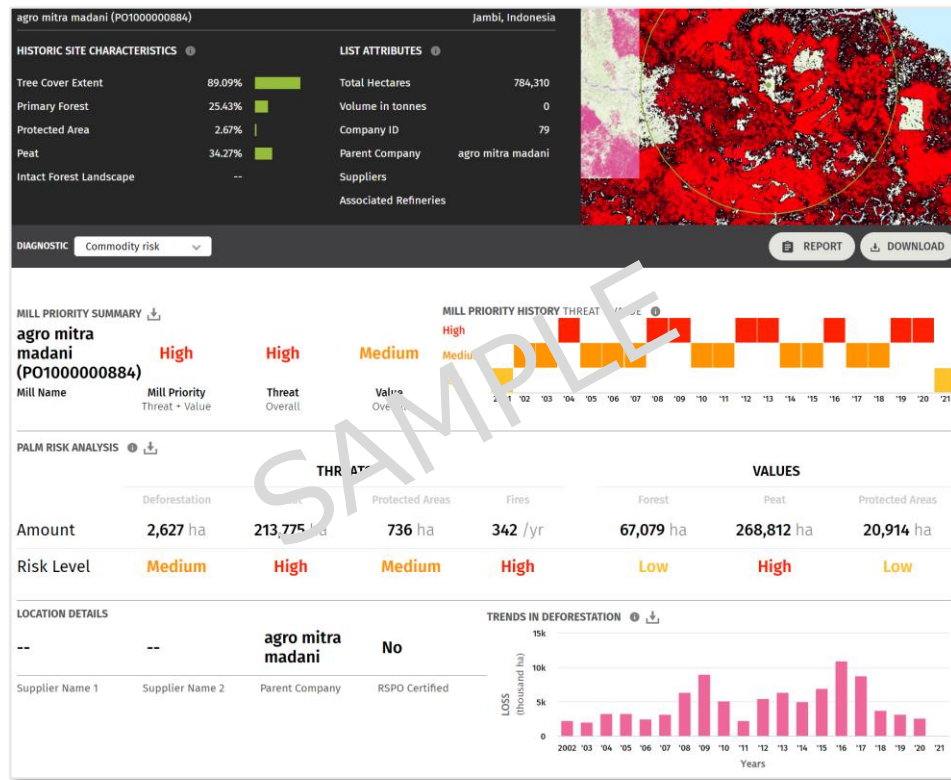


その後、パーム油の原油はタンクヤードから船やトラックに積んで、精製工場に送られる。

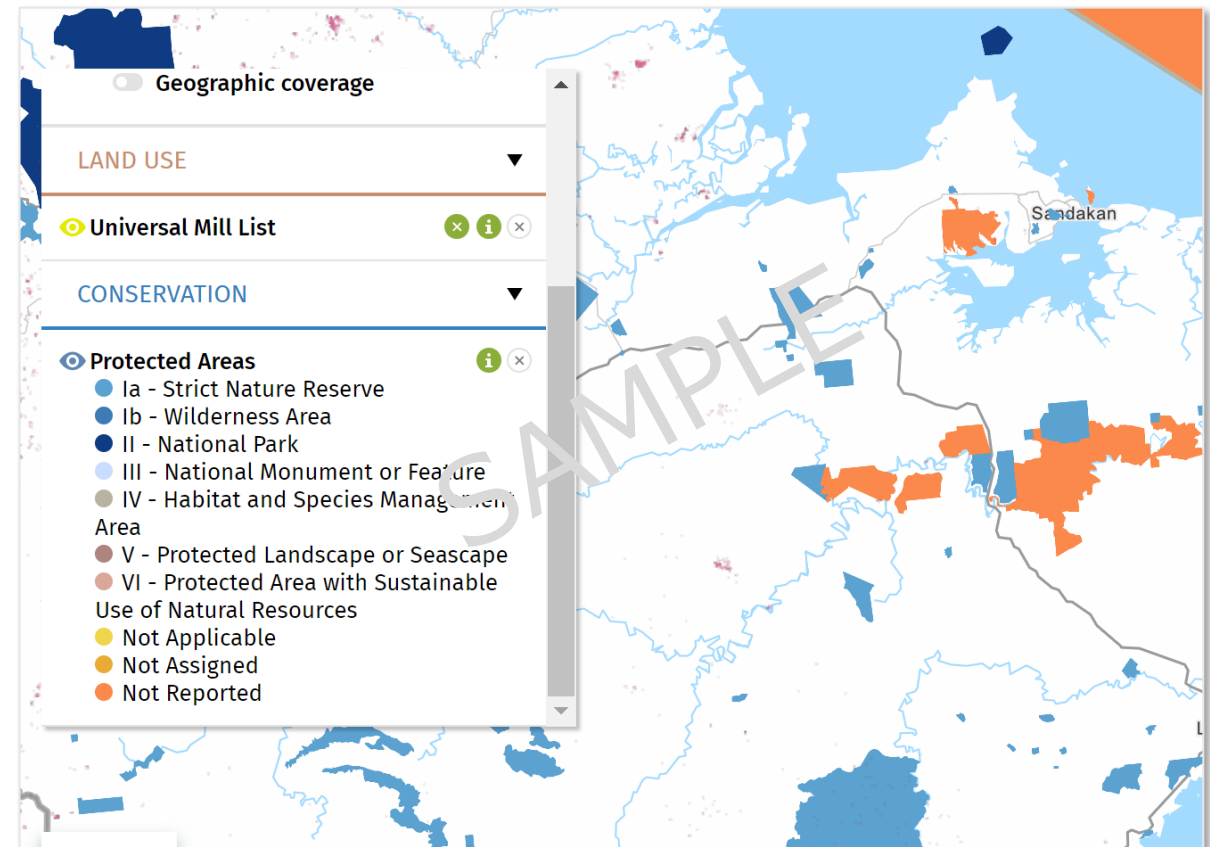
持続可能なパーム油調達：マクロの視点『衛星モニタリング』

衛星モニタリングツールを用いて、パーム油の搾油工場の位置情報を、地図／衛星写真や森林量データ等と照合することで、森林破壊リスクを把握。

森林破壊リスク分析結果（例）



森林保護区域との照合（例）



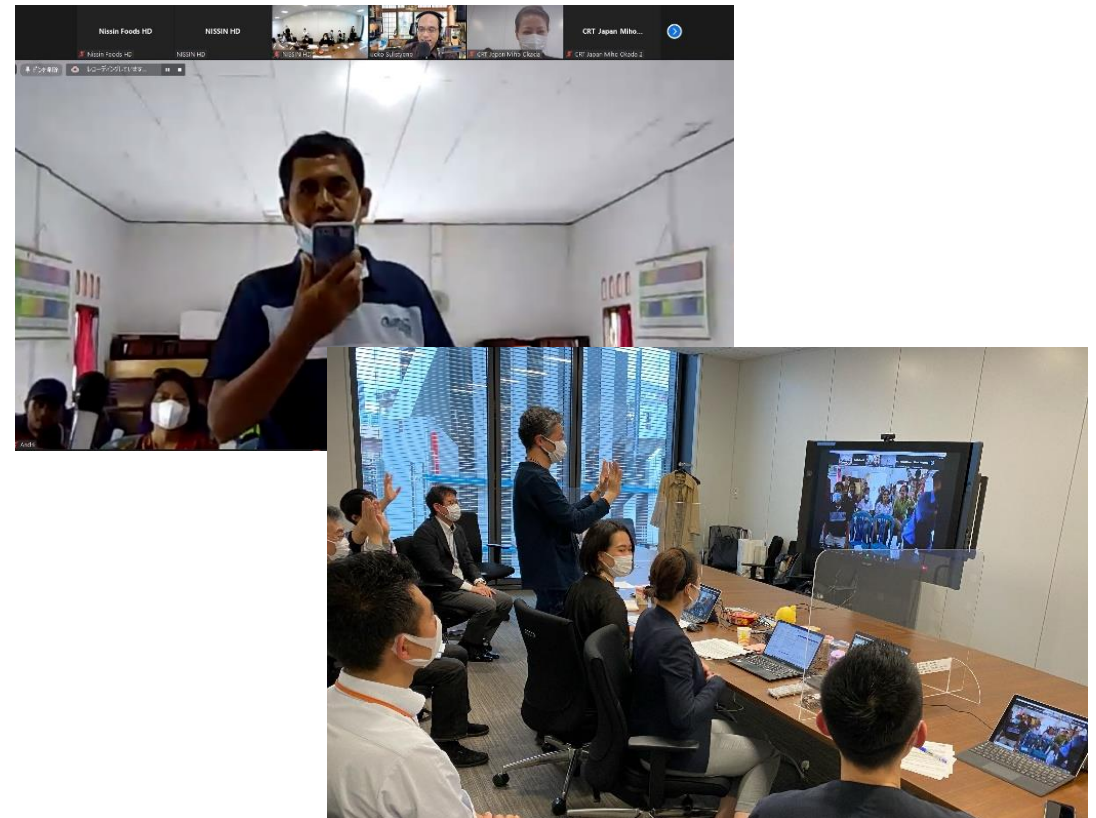
持続可能なパーム油調達：ミクロの視点『農家ダイアログ』

22年3月、23年3月にインドネシアの小規模パーム農家約20名とダイアログを実施。「農園運営」「環境」「人権」の3テーマについて意見交換し、ESGリスクを確認。

事前アンケート項目

アンケート項目 (全73問)										
3つの分野	農園運営			環境			人権			
	10の中核項目									
農家プロフィール	▲	△	△	▲	○ (森林保全のみ△)	○	○	○	△	△
	法順守	土地権利保全	認証	経済持続性 収入 生産性 CPO販売	農業手法 森林保全 化学物質管理 土壌管理 廃棄物管理	賃金	強制労働	児童労働・若年労働者・脆弱な労働者	労働安全衛生	苦情処理

ダイアログの風景 (22年はコロナ禍のためオンライン実施)

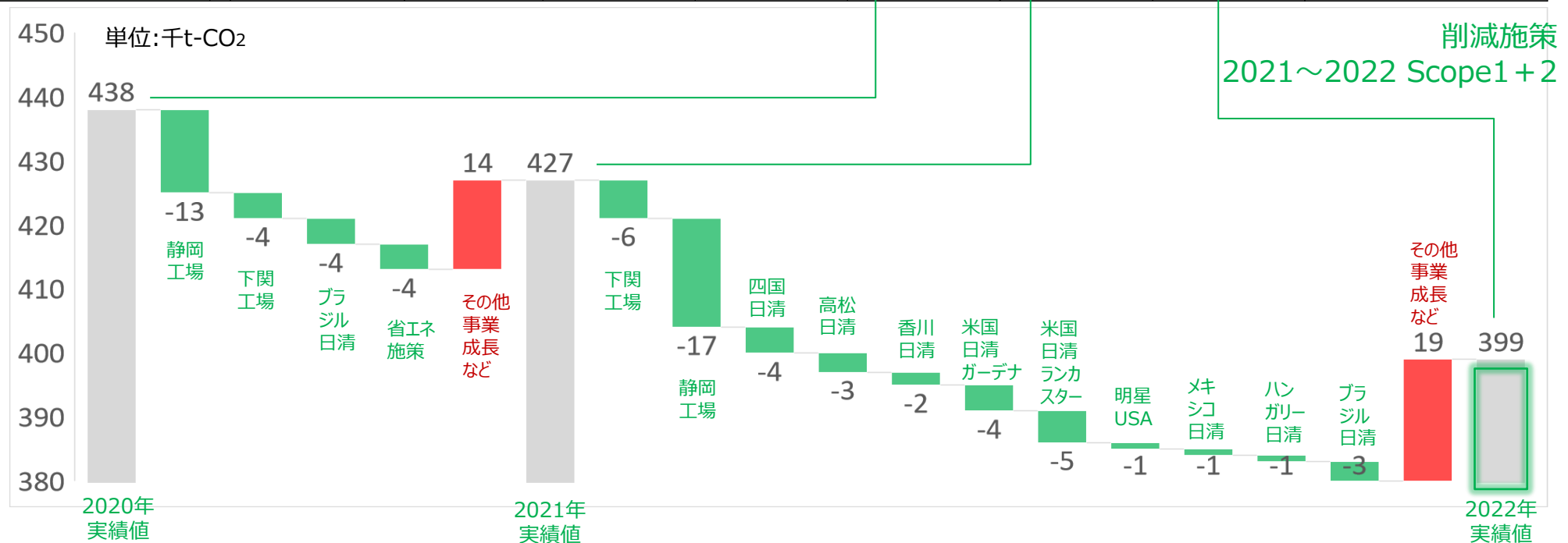




Scope 1+2 進捗

再エネメニュー切り替えを主とするCO₂削減が順調に進み、計画基準値（2018年）を下回る結果に着地。

会社名	Scope	単位	2018	2019	2020	2021	2022	2022 vs 2018年比
日清食品 グループ (日本・海外)	Scope1	千t-CO ₂	237	254	266	269	273	15.2%
	Scope2		179	174	172	158	126	-29.6%
	Scope1 + 2		416	428	438	427	399	-4.0%
	Scope3		3,068	3,092	3,329	3,138	3,081	0.4%



Scope 1+2 での取り組み事例

製造工場では省エネ診断と再生可能エネルギーによる電力調達を推進するとともに、新技術の導入によるCO2削減も検討中。



Scope 3 進捗

Scope3はRSPOパーム油の使用拡大が大きく寄与し、ダウントレンドで推移。

会社名	Scope	単位	2018	2019	2020	2021	2022	2022 vs 2018年比
日清食品グループ (日本・海外)	Scope1	千t-CO2	237	254	266	269	273	15.2%
	Scope2		179	174	172	158	126	-29.6%
	Scope1 + 2		416	428	438	427	399	-4.0%
	Scope3		3,068	3,092	3,329	3,138	3,081	0.4%

カップヌードルを中心とした、Scope3の削減に貢献する取り組み

植物由来の
バイオマスECO
カップの活用



フタ止め
プラスチック
の廃止



代替食技術
の活用



謎肉

持続可能な
パーム油の
使用拡大
26→38%

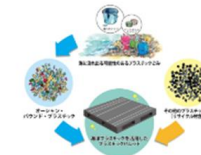


バリューチェーン全体にわたる包括的な取り組み

他企業との
共同輸送



“海洋プラスチック”
を素材の一部に
使用した
パレットを導入



「おいしいeco麺」
プロジェクト
「エコ包装」の対象
商品を拡大



Scope 3 での取り組み事例

Scope3削減に向け、「バイオマスECOカップ」等、製品を通じた様々な取り組みを今後も推進。

「バイオマスECOカップ」への進化

「バイオマスECOカップ」採用が高く評価



導入年	素材	使用素材	プラ削減率	CO2削減率
'08年以前	EPSカップ バイオマス度* 0%	石化プラスチック	(基準)	(基準)
'08年	ECOカップ バイオマス度 71%	紙 石化プラスチック	▲23%	▲21%
'19年	バイオマスECOカップ バイオマス度 81%~	紙 バイオマスプラスチック	▲40%	▲34%

Wタブの採用

プラスチック原料の使用量を年間で33トン削減



「おいしいeco麺」プロジェクト

プラスチックトレーを使っていない
おいしい eco麺

全トレー使用量
年間約
17%削減

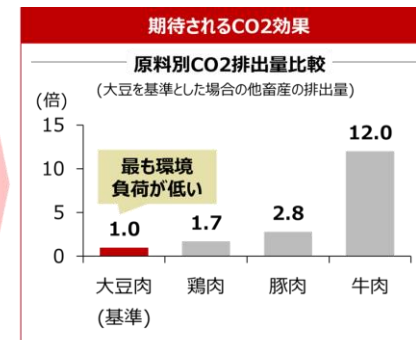


対象商品の製造工程や包装形態を見直すことで、プラスチックトレーを廃止
(日清食品チルドの年間使用量を約17%削減)

「謎肉」植物由来の代替食

Neo Natural Foodとは何か？

- Neo Natural Foodとは、植物由来の原料として作る代替食
- 現状は、“謎肉”として大豆ベースのNeo Natural Meatを使用
- 肉以外の素材への展開も検討中



出所：日清食品試算

2. 創業者精神に基づく非財務の取り組みと 企業価値の関係性の可視化・分析

1 俯瞰型分析 2 価値関連性分析 3 VTA分析

- **俯瞰型**：ESG指標とPBRの直接の相関を分析。学術的な信頼は高いがESG指標同士の分析は扱えない。
- **価値関連性**：ESG指標とEPS、PERの関係性に加えESG指標同士も分析することでストーリーとして理解可能。
- **Value Tree Analytics**：施策と従業員エンゲージメント要素の相関を分析。優先度評価できる段階ではない。

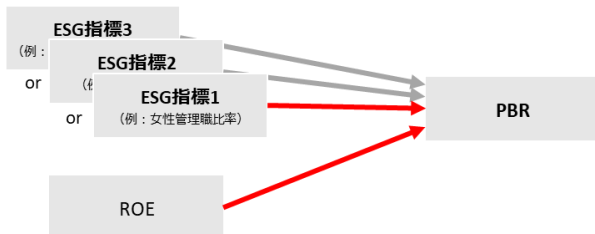
※ 5テーマ（働きやすさ、働きがい、部署環境、会社環境、上司）32項目

1 Return On Sustainability Index (俯瞰型分析)

- Pros：柳モデルを使用しており、**学術的にも信頼度が高い**
- Cons：ESG指標同士の関係性は分析できない。**当社はPBRを主要経営指標としていないため、指標として利用し辛い**

イメージ

各ESG指標（+ROE）と**PBR**の相関を分析
（ESG指標を1つずつ変えながら別々に分析）

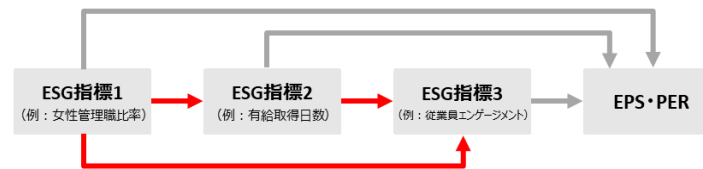


2 Return On Sustainability Index Correlation (価値関連性分析)

- Pros：当社が**経営上重視する「EPS」と「PER」**との関係性が分析可能。
- Cons：学術的な信頼度があるわけではない

イメージ

(1) 各ESG指標と**EPS・PER**の相関を分析
（(2)の絞り込みの参考とする）



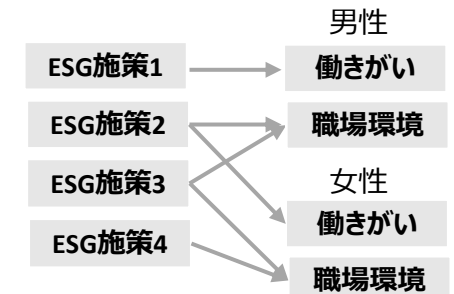
(2) **50指標に絞り、ESG指標同士**の相関を含むストーリー全体を分析

3 Value Tree Analytics (VTA分析)

- Pros：統計学的に効果的と考えられるESG施策（活動）が可視化される。
- Cons：学術的な信頼度があるわけではない

イメージ

施策のうち、性別・職種別にエンゲージメント向上＝従業員にとっての価値に繋がっているものと、そうでないものを特定



1 俯瞰型分析結果サマリー*

全社から収集した303件のESG指標を分析し、望ましい相関が前回比で約1.5倍に。
 昨年に引き続き、望ましい相関の割合は他社平均の約2倍の割合となった。

ESG	収集（分析）指標（ ）前年度実績		ずらし年数の 平均	望ましい相関の割合	
		望ましい相関		当社（%）	他社平均（%）
E	75(65)	22(17)	7.37(8.46)	29.3(34.0)	18.6
S	159(138)	67(46)	6.25(5.56)	53.5(42.6)	16.0
G	42(46)	9(11)	4.17(4.31)	42.1(37.9)	17.2
-	27(25)	15(5)	9.67(10.45)	21.4(45.5)	—
計	303(198)	113(79)	6.76(6.38)	37.3(39.9)	18.3%

* 抽出条件：自由度調整済み決定係数：0.5以上、ESG KPIに係るp値：0.05以下

** ABeam社がDigital ESGを受託している複数社における分析結果の平均値（2022年3月時点）

1 Return On Sustainability Index (俯瞰型分析)

昨年度に引き続き、創業者精神に基づく当社のESG活動を定量分析。改めて企業価値向上との間に正の相関関係があることを確認。

ESG-KPI (抜粋) と企業価値へのインパクト**

ミッション：創業者精神

当社の重点取組テーマ (非財務)

ESG-KPIを1%改善した際、“何年後”に“何%PBRが向上するか”を示す

“定量”によるアプローチ

市場規模の拡大	-	2年後に+8.7% → 2年後に+8.5%
研究開発費	●	7年後に+1.4% → 4年後に+0.7%
Creative & Uniqueな コミュニケーションによるブランド力の向上	-	6年後に+5.5% → 6年後に+5.2%
食育イベントの開催数	●	7年後に+0.7% → 4年後に+0.7%
育児短時間勤務：女性	-	1年後に+0.7% → 1年後に+0.6%
プラスチック使用量	-	4年後に1.2% → 4年後に1.2%
CO2排出量	●	8年後に1.0% → 9年後に+0.8%
水使用量	●	10年後に1.8% → 5年後に+3.2%

食 足 世 平

食が足りてこそ世の中が平和になる

食 創 為 世

世の中の為に食を創造する

美 健 賢 食

美しく健康な体は賢い食生活から

食 為 聖 職

職の仕事は聖職である

- 食の安全安心
- 持続可能なサプライチェーンの構築

- 食の安全安心／人材育成、イノベーションな組織基盤の開発
- 責任ある製品表示・お客様コミュニケーション

- テクノロジーによる食と健康のソリューション提供／責任ある製品表示・お客様コミュニケーション

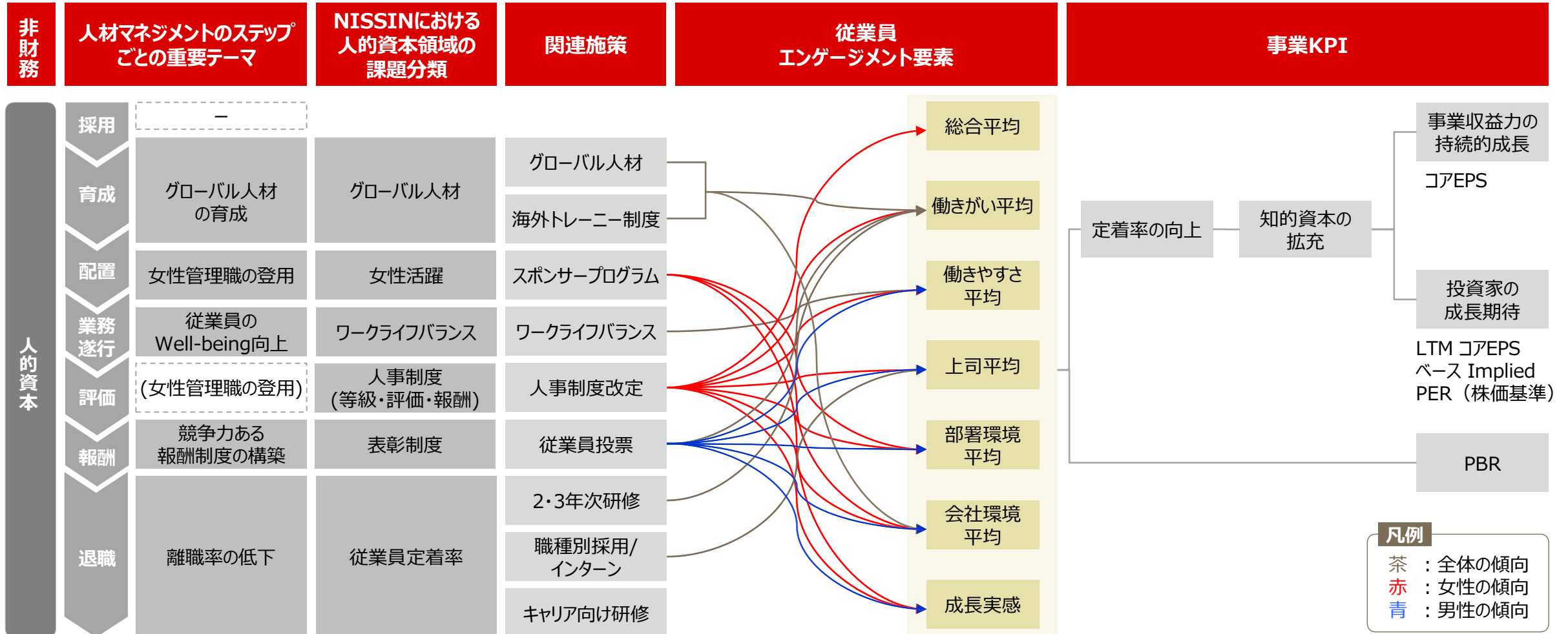
- 食の安全安心／責任ある製品表示・お客様お客様コミュニケーション
- 気候変動問題へのチャレンジ
- 資源有効活用へのチャレンジ

“定性”によるアプローチ

* SASBマテリアリティマップをはじめとする各種外部評価機関の項目を考慮し、将来的な財務インパクトが高いと想定されるESG要素を特定した当社の重点取組テーマ
 ** “CFOポリシー（中央経済社2020）”にて柳良平氏が開発したモデルに基づき、アビームコンサルティング株式会社のDigital ESG Platformで分析（2022年3月）

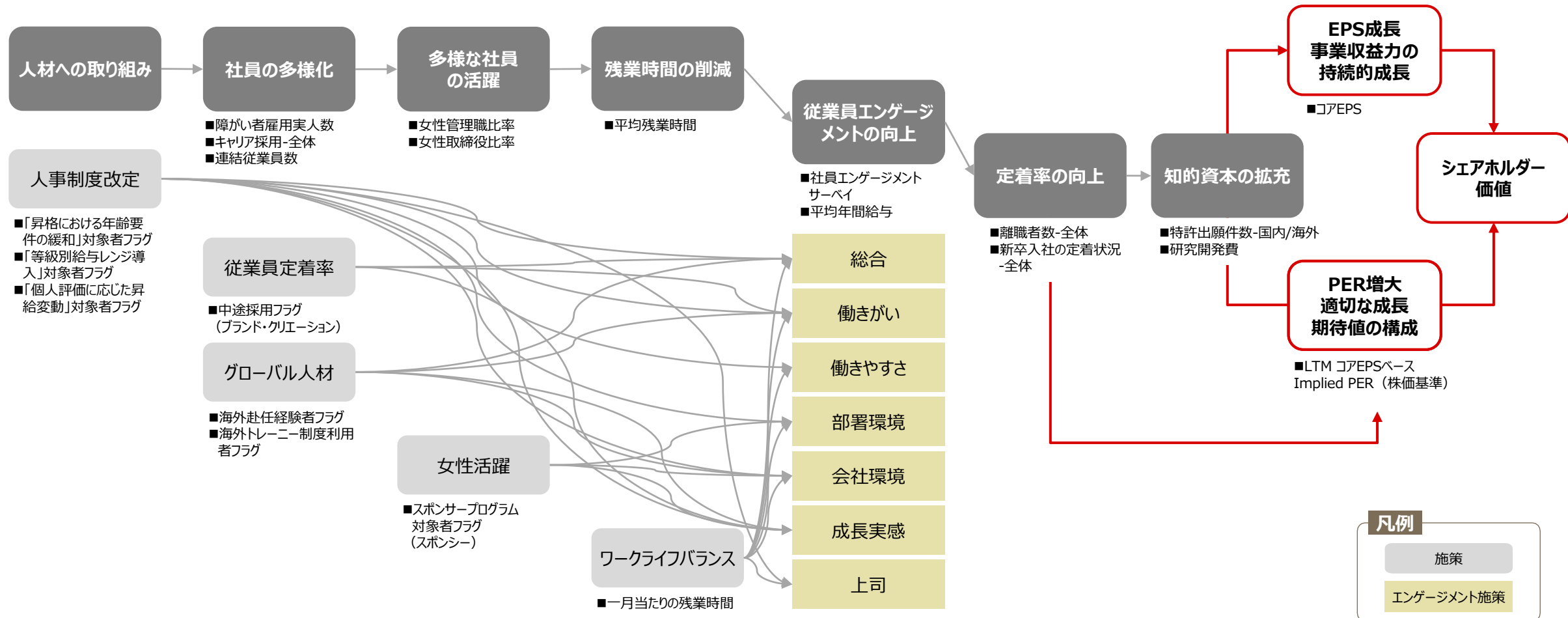
3 Value Tree Analytics (VTA分析)

人的資本領域に関する課題を、人材マネジメントプロセスに基づき整理し、それらに紐づく施策が性別・職種別にどのようなエンゲージメント要素の向上に繋がっているか、その相関有無を検証。



3 Value Tree Analytics (VTA分析)

価値関連性分析で示した、人的資本がアウトプット/アウトカムを創出し企業価値向上につながるまでの流れ（ストーリー）を、実際に実施している施策からも実証することができた。



いずれか一つの属性において、エンゲージメント向上との関係性が実証された部分

3. カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ宣言

日清食品グループのカーボンニュートラル宣言

持続可能な社会に向けた日清食品グループの新たな挑戦！

「ネイチャーポジティブ」を推進し、2050年「カーボンニュートラル」を目指す

生物多様性を回復させながら、CO2排出量を“プラスマイナスゼロ”に

日清食品グループは、2020年4月に策定した環境戦略「EARTH FOOD CHALLENGE 2030」においてCO₂排出量の削減目標を定め、再生可能エネルギーの使用をはじめとした取り組みを進めています。

近年、企業におけるCO₂排出量削減の取り組みは、サプライチェーン全体を巻き込んで強化していくことが求められています。また、生物多様性が重視される中、「ネイチャーポジティブ」は「カーボンニュートラル」に続く国際的なテーマとして、次の世界目標に位置づけられようとしています。

日清食品グループは、商品に使用する植物性食品*1の割合を拡大するなど、原材料に関する環境負荷の低減や、生産工程で廃棄される食材のアップサイクル*2による資源の有効活用、即席麺の製造に使用するパーム油の生産地における森林再生活動*3など、「ネイチャーポジティブ」に向けたさまざまな活動に取り組み、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」の達成を目指すことを宣言します。

日清食品グループは、気候変動対策に加え、生物多様性の保全と回復を重要な経営課題に位置づけ、これからも持続可能な社会の実現に努めていきます。

*1: 植物に由来する食品で、穀類、芋、豆、野菜、キノコ、果実、海藻類や、それらを加工した食品のこと。動物に由来する食品に比べ、生産過程での環境負荷が少ないといわれている。

*2: 本来捨てられるはずだった物に新たな付加価値を与え、別の物として再利用すること。

*3: 森林破壊や森林伐採により減少しつつある森と林を、森に光を入れるための間伐や、林木育苗や植林などを通じて意図的に回復させること。

ネイチャーポジティブとカーボンニュートラルの関係性

ネイチャーポジティブに向けた取り組みとカーボンニュートラルに向けた取り組みを両輪で進めることで、さらなる相乗効果の創出を目指す。



ネイチャーポジティブ実現に向けた取り組み方向性

まずはサプライチェーン上の森林破壊防止に注力し、徐々に環境負荷の少ないビジネスモデル、そして自然を増やすビジネスモデルへの移行を推進。

ホップ

現行サプライチェーンにおける森林破壊防止

- 全 ● 生物多様性アセスメント実施
- 陸 ● 森林リスク商品*1に対する認証品の購入量拡大（パーム油、牛肉、紙パルプ、大豆等）
- 陸 ● 衛星モニタリングによる森林破壊アセスメントとサプライヤー管理
- 陸 ● グローバル全体のミルリスト作成

ステップ

より環境負荷の少ないビジネスモデルへの転換

- 全 ● 製品ポートフォリオにおける植物性食品の割合拡大
- 全 ● アップサイクル原材料の使用
- 水 ● 海洋資源・環境に配慮した水産品の購入量拡大（MSC・ASC認証）
- 水 ● 水資源の使用量削減
- 陸 ● 低農薬・低殺虫剤型農業を実践するサプライヤーからの購入
- 全 ● 容器包材のプラスチック使用量削減

ジャンプ

より自然を増やすビジネスモデルへの転換

- 陸 ● 再生型農業*2を実践するサプライヤーからの購入
- 水 ● 再生型養殖*3を実践するサプライヤーからの購入
- 全 ● 生産者の再生型農業/水産養殖への転換支援（教育・資金提供など）
- 陸 ● 自社拠点や調達拠点周辺の緑地化・里山化

- 全 ● 全般に対する取り組み
- 陸 ● 主に森林・農地などにおける取り組み
- 水 ● 主に海・川などにおける取り組み

自然資本の量

*1：森林リスク商品とは、世界的に取引されており、森林減少の原因となる商品および原材料を指す。

*2：再生型農業とは、土壌とその生態系を保全・回復しながら農業を行うモデルを指す。

*3：再生型水産養殖とは、海水資源や淡水資源を回復させながら養殖を行うモデルを指す。

カーボンニュートラルを目指した2030年目標の上方修正

1.5°C目標を意識し、2030年の削減目標を上方修正。インターナルカーボンプライシング制度を導入することで新目標への取り組みを更に加速。



日清食品グループの
EARTH FOOD CREATOR（食文化創造集団）
としての挑戦は続く…

